

平成 28 年度 登録建築板金基幹技能者講習試験

(九州ブロック)

1 年月日 平成 28 年 10 月 26 日 (水)

2 会場 佐賀県鳥栖市本鳥栖町 1819
サンメッセ鳥栖

3 試験時間 60 分

4 問題数 30 問 (四肢択一式)

5 注意事項

- (1)係員の指示があるまで、問題を開かないで下さい。
- (2)解答用紙に、所属組合名・受講番号・氏名を必ず記入して下さい。
- (3)係員の試験開始の合図で始めて下さい。
- (4)正解を一つ選択して解答して下さい。二つ以上解答した場合は誤答となります。
- (5)解答は、必ず解答用紙に記入して下さい。
- (6)携帯電話は、試験前には必ず電源を切って下さい。
- (7)質問がある場合は、速やかに挙手して係員の指示に従って下さい。
但し、試験問題の内容や漢字の読み方等に関する質問には、お答えできません。
- (8)試験終了時刻前に退席する場合 (試験開始から 30 分経過後より可能) は、挙手して係員の指示に従って下さい。トイレ等の一時的な離席も同様です。

終了の合図があったら筆記用具を置き、係員の指示に従って下さい。

平成 28 年度 登録建築板金基幹技能者講習試験問題

平成 28 年 10 月 26 日出題

問 1 基幹技能者に必要な資質について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 約束を守る
- ロ 健康であること
- ハ 統率力がある
- ニ 理屈は言えるが実行しない

問 2 コンプライアンスの意味として正しいものはどれか

- イ 公正・公平に業務遂行する 法律を遵守する
- ロ 責任を持った約束・公約・確約
- ハ 互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと
- ニ 概念・観念

問 3 管理者が部下の意見を聞くポイントとして正しいものはどれか

- イ 気が散らないように、部下の話に注意を集中させる必要はない
- ロ 話し手に対する偏見や他人のうわさ話を思い出すことに気をつけなくてよい
- ハ 注意深く聞いていることを体いっばいに示し、相槌や質問を試みる
- ニ 話は最後まで聞く必要はない

問 4 環境保全計画の検討事項について、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 人工環境の保全
- ロ 公害の防止
- ハ 近隣環境の保全
- ニ 労働環境の保全

問 5 工事写真の分類について、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 着手前及び隣地写真
- ロ 施工状況写真
- ハ 使用材料写真
- ニ 品質管理写真

問6 労働安全衛生法について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 統括安全衛生責任者を選任すべき事業者以外の請負人は、安全衛生責任者を選任しなければならない
- ロ 事業者は、高圧室内作業その他の労働災害を防止するための管理を必要とする作業を行う場合は、免許を受けた者又は技能講習を修了した者のうちから作業主任者を選任し、作業に従事する労働者の指導等を行わせなければならない
- ハ 事業者は、労働者を雇入れたときは、従事する業務の安全衛生教育を行わなければならない
- ニ 事業者は、労働者に対し、厚生労働省令で定めるところにより、看護婦による健康診断を行わなければならない

問7 建設業法令遵守ガイドラインのうち【見積り条件の提示（建設業法第20条第3項）】に関する記述で不適切なものはどれか

- イ 元請負人が、明確な工事内容等の見積り条件を書面により示して、下請負人に見積りを行わせた
- ロ 元請負人が下請負人から工事内容等の見積り条件に関する質問を受けた際、元請負人が書面で具体的内容の回答を行った
- ハ 元請負人が予定価格700万円の下請契約を締結する際、見積り期間を3日として下請負人に見積りを行わせた
- ニ 元請負人が予定価格500万円に満たない下請契約を締結する際、見積り期間を3日として下請負人に見積りを行わせた

問8 構造計画に関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 建物に荷重・外力が作用した場合、力の流れ（伝達）方に無理があるとその部位に損傷・破損が発生する
- ロ 鉛直荷重とは建物に重力と同じ横方向（水平方向）にかかる荷重で、建物の自重（固定荷重）、積載荷重、積雪荷重などである
- ハ 水平荷重とは建物の横方向に働く荷重。地震力、風圧力など
- ニ 地震・風などによる水平力に対しては骨組、耐力壁、筋かいなどに抵抗させるが、これらの各耐力要素に対しバランスよく抵抗させることが肝要である

問9 品質管理について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 品質管理とは、設計図書及び仕様書に示された規格を十分満足するような工事的物を最も経済的につくるための管理である
- ロ 高い品質は、発注者をはじめ、設計・監理者・ゼネコン・専門工事業者・材料供給業者の間で品質に関する考え方の共有が必要である
- ハ 品質に対する顧客満足度と顧客要求事項を満たす程度が高ければ品質は高く、逆であれば、品質は低くなる
- ニ 品質は工程と検査で造り込む

問10 作業員が禁止されている危険行動の具体例として誤っているものはどれか

- イ 高さや深さが 1.0m を越える場所は、昇降設備を使って昇り降りしなければならない
- ロ 関係者以外立入禁止と定められている場所には、関係者以外、勝手に入ることはいできない
- ハ 高さ 3m の高所から物を投げ落すことは、投げ落しても危険がない設備がない限り、禁止である
- ニ タバコの火を使った時には、タバコの火の始末を確実に行う

問11 責任施工保証制度の目的及び内容となる4つの側面について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 最終的には、自己責任のかたちで国民の信頼に応えることのできる専門の担当分野が確立されなければならないという意味において、屋根及び外壁を中心とした建築外装系について自立した専門工事業としての「業種的地位」を確立するための運動
- ロ 施主あるいは発注者の信頼につながる公正さや透明性を担保する観点から、客観データに基づく図書体系の策定等を通じての、使用資材及び採用構工法並びに駆使する技能・技術に関する「定型化」あるいは「標準化」を進める運動
- ハ 施工の直接作業能力を有する人材としての<技能者>の養成、施工管理能力を有する人材としての<技術者>の養成など、「人づくり（登録基幹技能者）」を進める運動
- ニ 小規模事業者が圧倒的に多い業界の実態を考慮し、作業の共同から事業の協同及び合同までを視野に入れた「資金援助づくり」を目指す運動

問 12 屋根葺き材の適用勾配について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 平葺（一文字葺） 4/10 以上
- ロ 粘土瓦葺 4/10 以上
- ハ 心木なし瓦棒葺 5/100 以上
- ニ 心木あり瓦棒葺 1/10 以上

問 13 提出書類の確認について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 施工要領書
- ロ 施工図
- ハ 材料検査表
- ニ 地質調査

問 14 鋼板の塗装製品の初期塗替え時期の目安について、次の記述のうち正しいものはどれか

- イ 鋼板にポリエステル系塗装は一般的な場所で 7～9 年
- ロ 鋼板に塩ビ樹脂系塗装は一般的な場所で 6～10 年
- ハ 鋼板にフッ素樹脂系塗装は厳しい場所では 20～22 年
- ニ 耐酸被覆鋼板の場合は厳しい場所では 20～25 年

問 15 設計時に検討される性能として、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 太陽光の紫外線領域を反射し表面温度上昇を有効に制御できること
- ロ 外装面の輻射熱及び内外の気温差による伝熱を有効に遮断できること
- ハ 建築物内外の音源から発生する空気伝播音を有効に遮断できること
- ニ 室内騒音レベルの上昇を許容限度内に留められること

問 16 外壁の下地構法として次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 外壁の下地に用いる胴縁は、適切な強度、剛性並びに耐久性を有するものとしなければならない
- ロ 胴縁の取り付けは外壁材に拘わらず 450 mm とし、防耐火性能等が必要な場合にはその仕様に準ずる
- ハ 外壁各部の取り合いには、外壁材の端部や役物等を固定するために適切に胴縁を配置する
- ニ 胴縁の不陸その他の下地の不具合は、外壁の仕上げに影響を与えるので注意しなければならない

問 17 屋根の改修工事で、設計・見積り時の調査項目として、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 屋根材の種類及び板厚
- ロ 屋根材の劣化状態は関係せず
- ハ 心木の有無と間隔
- ニ 軒・棟の役物の納まり寸法

問 18 吊り折板屋根の納めの説明で誤っているものはどれか

- イ 折板吊り金具は原則として、隣り合う梁ごとに同じ方向で取り付ける
- ロ 内どいは、壁側の胴縁と折板から帯鋼で支持する。胴縁は内どいの重量を支持できる寸法とする
- ハ 軒出寸法は、折板の山高の5倍程度以下にすることが望ましい
- ニ 折板を梁上に施工する場合は、ガセット廻りに止水上有効な処理を施す

問 19 施工に当たっての各種図書等の確認で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 現場説明書は、現状の立地条件、敷地や工事範囲等を説明したもので、工事に先立ち必ず内容を確認する必要はない
- ロ 配置図で、敷地内における建築物の位置、敷地面積、方位、BM（ベンチマーク）、高低、道路、敷地境界線等を確認し、資材の搬入・置き場、現場成形等に役立つ
- ハ 資材搬入等を考慮し、現場付近の道路、交通機関、駐車場、方位、地形等を明記した現場案内図を確認する
- ニ 特記仕様書は、外装材の工事において施工条件により適した工法・材料等を用いるため、特殊な箇所の仕様等を明記したものである

問 20 維持保全計画で定めるべき事項で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 建築物又はその部分の用途、将来の増改築の予定に関する事項
- ロ 維持保全を行うための組織、維持保全業務の委託、建築士その他専門技術者の関与等に関する事項
- ハ 点検箇所、点検時期、点検者、点検に当たっての判断基準、結果の報告等に関する事項
- ニ 安全衛生教育の実施等に関する事項

問 21 改修工法について、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 既存塗り替え工法は、既存の屋根ふき材又は外壁材表面の劣化部分を除去し、耐用年数や遮熱性能の向上を重視した全面的な塗り替えるもの
- ロ 既存被覆工法（カバー工法）は、既存の屋根ふき材等を撤去せずに、その上から金具等を介して新規の仕上げ材を機械的に固定するもの
- ハ 既存ふき替え工法は、既存の屋根ふき材等を撤去した後、新規の仕上げ材を施工するもの
- ニ 既存塗り替え工法は、既存被覆工法や既存ふき替え工法よりも比較的高価な改修コストで実施できると考えられる

問 22 維持保全に関する用語の説明で誤っているものはどれか

- イ 日常点検 = 対象物が日常運用されているときに可能な点検
- ロ 定期点検 = 周期を定めて対象物を休止させたりして行う点検
- ハ 保守 = 消耗部品の取り替えや汚れの除去等、対象物の機能の維持と耐久性確保のために行う作業
- ニ 修繕 = 劣化又は陳腐化した部材・部品等の機能・性能・外観を現状あるいは初期の水準以上の状態にすること

問 23 鋼板製屋根・壁の設計時に検討される性能で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 強風時に作用する風圧力に対して、外装材及び接合部に構造耐力上有害な変形、破損又は脱落があってもやむを得ない
- ロ 積雪時に作用する積雪荷重に対して、外装材及び接合部に構造上有害な変形、破損又は脱落を生じないこと
- ハ 通常自然条件、使用条件、維持管理条件のもとで、耐用年数内に有害な劣化が起こらないこと
- ニ 通常風雨条件に対して、室内への雨漏り及び外装材層への有害な浸水を生じないこと

問 24 設計時に検討される性能として、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 屋内外の温度差により生じる有害な結露が生じないこと
- ロ 想定する気密性を充分維持できること
- ハ 夏季の放射冷却に起因する外装材温度の低下による結露が生じないこと
- ニ 強風以外の局圧に対して有害な変形又は破損を生じないこと

問 25 横ぶき屋根施工について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 中間継手の隙間（クリアランス）はいらない
- ロ 葺き廻しぶきにするとロスが小さくすむ
- ハ 千鳥葺きにすると材料のロスが多い事がある
- ニ 谷部は屋根材をつかみ込で納める

問 26 スレート屋根改修におけるアスベスト対策について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 石綿作業主任者の選任と作業員への特別教育を実施する
- ロ レベル 3 対応の防塵マスクや通勤等と同じ作業衣を着用する
- ハ 関係者以外の立ち入りを禁止する
- ニ 廃スレートは専門業者に委託し、産業廃棄物として安定型最終処分場で処理する

問 27 吊り工法、折板屋根施工について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 吊り工法では、割り付は考慮しなくても良い
- ロ 軒出寸法は折板の山高の 5 倍程度以下にする
- ハ けらば端部は適切に補強する
- ニ 吊り工法では折板の全山部に金具をつける

問 28 二重折板屋根施工の納まりについて、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 下葺き材は外壁より外に出して納める
- ロ 二重折板なので下葺き棟包は必要ない
- ハ 断熱金具はタイトフレームの上部につける
- ニ けらば納めは下葺きとけらば包みを施工し上部を葺く

問 29 設計・施工上の役割の説明として誤っているものはどれか

- イ 鋼板製屋根・外壁の設計・施工に関わる者として、設計者、総合工事業者、専門工事業者、製品供給業者がある
- ロ 構造耐力上の検討を含めた設計行為に対する責任は設計者にある
- ハ 仕様や強度データ等の各種技術情報は積極的に提供してはいけない
- ニ 設計時に想定した構造性能が達成できるよう、各業者間での情報共有が必要である

問 30 折板屋根のけらばの納め方で誤っているものはどれか

- イ けらばは、端部用タイトフレームによって補強する
- ロ けらば包みとして用いる鋼板は、折板と同等の品質を有するものとする
- ハ けらば包みの加工長さは、概ね 1m 以下として継手箇所を増やす
- ニ けらば包みどうしの重ね部の留め付けは細目ねじ又は耐水リベットによるものとする